

3. 周辺区域における構想の検討

3-1. 遊歩道の整備

(1) 遊歩道の検討

島田地区の周辺には、島田集落をはじめとする昔ながら農村の景観が残っている。特に、「島田谷津」と呼ばれている昔の谷津田は、里山、谷津としてすばらしい景観を有しているので、ここを中心に農村の家並みを見ながら散策できるいくつかのコースを設定し、案内板、安全施設、休憩施設等の整備を行う。

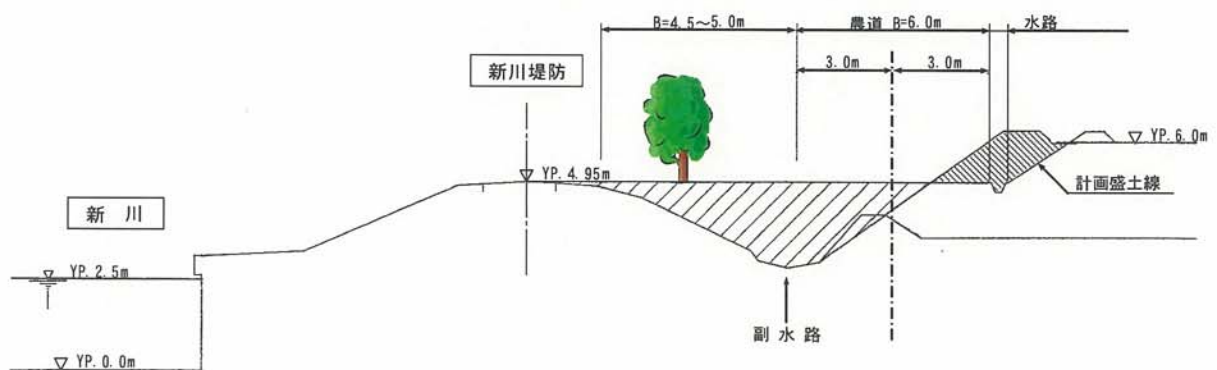
また、新川沿いには、「新川千本桜植栽事業」により桜が植栽されているので、これとともに各コースに四季を通じた草花を植採し、花を鑑賞しながら散策できるコースや新川の田園風景が一望できる散策コース等を計画する。散策コースの案として下に示すコースを設定する。

(「やちよふれあいの農業の郷 遊歩道平面図」 P. 2-35 参照)

- ・展望・花散策コース L= 4.0km
- ・農村・谷津散策コース L= 6.0km
- ・短縮散策コース L= 3.5km

(2) 草花の植採について

島田地区におけるほ場整備事業において、新川沿いに位置する副水路は土で埋め立てられる計画であるため、河川区域に4.5m～5.0mの土地が生み出される。ここには、新川千本桜植栽事業により桜の木が植えられる予定となっているが、この他にも四季の花々や花木を植栽する。



副水路埋め立て計画断面図

植栽方法は、島田地区の中核施設南側の新川沿いの区域には、季節ごとに植え替える1年草、球根植物などを植栽し、統一感のある景観とする。国道16号より北側のエリアには、比較的手のかからないワイルドフラワー、多年草、宿根草やツツジ、サツキなどの花木を植栽する計画とする。季節ごとの花の種類を例として次頁に示す。

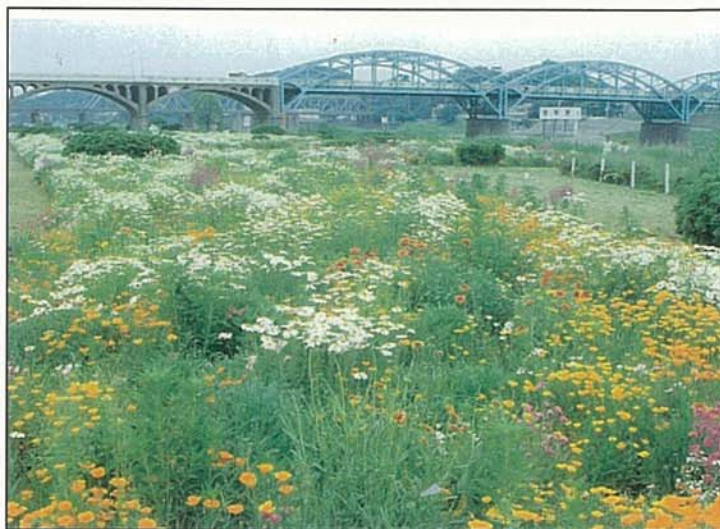
春：パンジー、菜の花、スイートピー、キンセンカ（1年草）、チューリップ、クロッカス、フリージア（球根植物）、芝桜、マツバギク、スズラン、マーガレット（宿根草）

夏：ダリア、ひまわり、マリーゴールド、コスモス、マツバボタン（1年草）、カスミソウ、アガパンサス（宿根草）

秋：おみなえし、菊（宿根草）

冬：ゼラニウム、クリスマスローズ（宿根草）

その他、地区周辺道路の法面等にも植栽を検討する。



ワイルドフラワーの植栽例

(3) 谷津田の活用について

島田地区の西側には島田谷津と呼ばれている谷津田がある。昭和63年に基盤整備が終了しているが、一部未整備で昔の谷津田をそのまま残した場所ではここは景観的にすばらしく、ふれあい広場からも1km程度と歩いていける距離なので、散策コースの中に入れ、多くの人たちが訪れるよう誘導する。

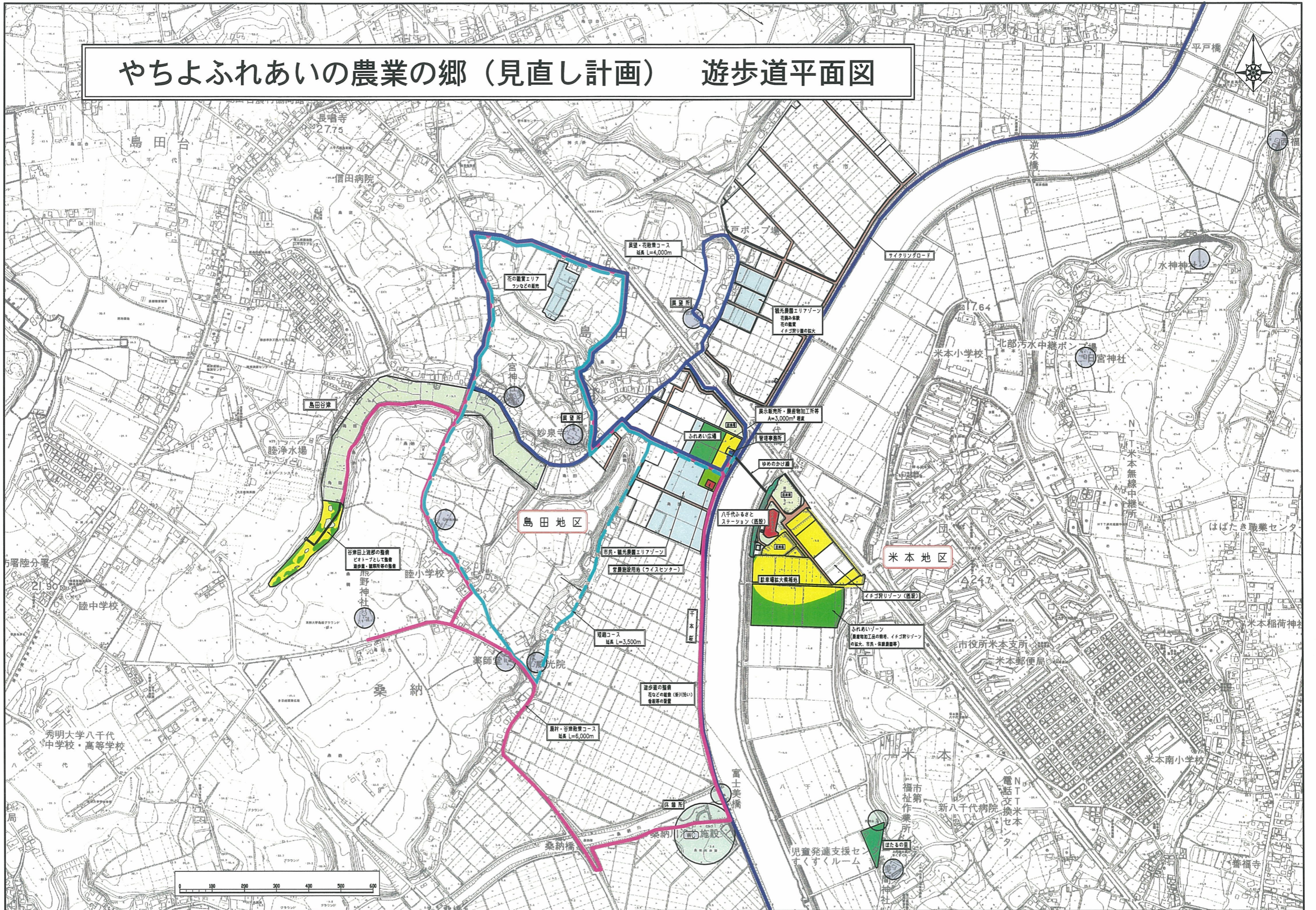
（「谷津田の整備イメージ図」 P. 2-38 参照）

3-2. サイクリングコースの設定

新川沿いの堤防はサイクリングコースとなっており、新川の自然や印旛沼干拓の歴史を探索するコースとして計画に取り入れ、中核施設区域を含む全体計画区域として、北は保品の阿宗橋、南は総合運動公園までを位置づける計画とする。（「やちよふれあいの農業の郷全体計画平面図（阿宗橋～総合運動公園）」 P. 2-37 参照）

また、利根川から東京湾まで（長門川～北印旛沼～印旛捷水路～西印旛沼～印旛放水路（新川）～花見川）すでに整備されているものを含め約50kmのサイクリングロードが県・市の公園部門において計画されており、上記で示した本計画区域のサイクリングコースの一部がこの中に含まれる。（「サイクリング広域コース」 P. 2-36 参照）

やちよふれあいの農業の郷（見直し計画） 遊歩道平面図



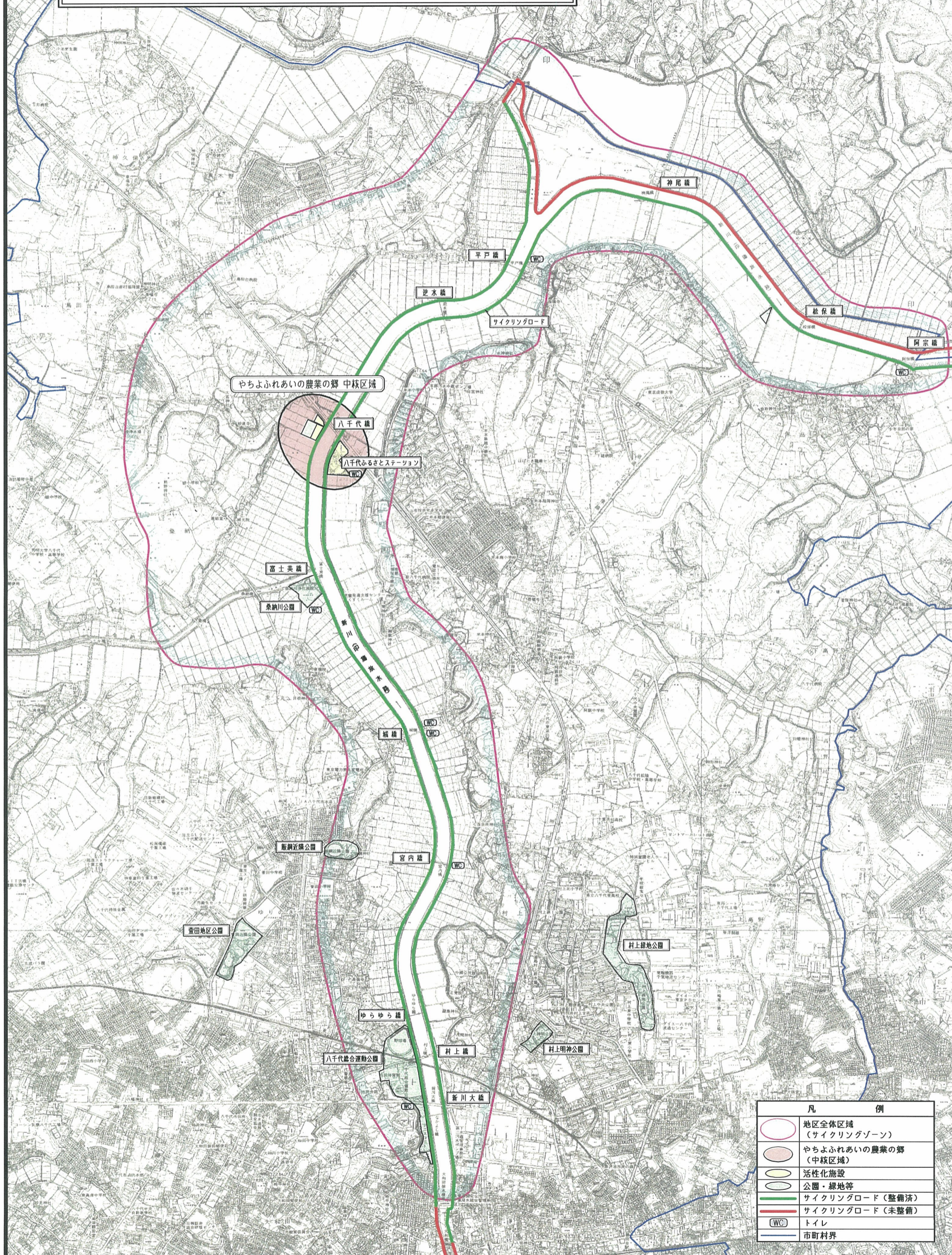


サイクリング広域コース（利根川～印旛沼～新川～花見川～東京湾） L=50km

やちよふれあいの農業の郷 中核区域

凡 例	
	整備済
	未整備

やちよふれあいの農業の郷（見直し計画）
 全体計画平面図（総合運動公園～阿宗橋）



凡 例	
	地区全体区域 (サイクリングゾーン)
	やちよふれあいの農業の郷 (中核区域)
	活性化施設
	公園・緑地等
	サイクリングロード(整備済)
	サイクリングロード(未整備)
	トイレ
	市町村界

谷津田整備のイメージ図

